

## 前立腺癌におけるがん免疫に関連する分子・細胞の研究

### 1. 研究の対象

2007年1月～2018年3月に当院で前立腺癌・良性前立腺疾患に対して生検あるいは手術を受けられた方。

### 2. 研究目的・方法

前立腺癌が進行すると、去勢抵抗性前立腺癌といわれる共通の最終像となります。去勢抵抗性前立腺癌に移行した後の生存期間は、現行の治療薬を用いても、中央値3年の頭打ちであり、前立腺癌の予後を改善させるため、新たな治療戦略が必要となります。

他のがん種では、悪性黒色腫、非小細胞性肺癌、腎細胞癌に対して、免疫チェックポイント分子阻害薬であるニボルマブ（抗PD-1抗体）の効果が証明され、新たな治療法としての地歩を固めつつありますが、前立腺癌に対しては免疫チェックポイント分子阻害薬の効果が証明されておりません。そこには、前立腺癌によるがん免疫監視機構からの逃避メカニズムが働いていると考えられますので、これらに関わる分子・細胞の発現とがんの悪性度、浸潤・転移、治療後の再発・再燃、がん特異的生存率、全生存率との関連を調査します。悪性度に関連するがん免疫逃避に関わる分子が明らかになれば、それらを操作することで去勢抵抗性前立腺癌への移行を阻害する治療法や、前立腺癌に対する新たながん免疫療法の発展につながることも期待されます。

（解説）免疫チェックポイント：ウイルス感染などが治癒した後になってもT細胞免疫が持続的に活性化して生体への障害が起きないように、1度活性化された免疫反応を元に戻す免疫制御機構。がん細胞はこのメカニズムを利用して、T細胞上の抑制分子であるPD-1に働きかけ、T細胞の活性化を抑制し、がん細胞自身への攻撃が生じないようにしている。

ご協力頂きました試料の個人識別情報は匿名化コードにより匿名化し、暗証番号により厳重に保管します。

この研究で使用した組織切片は、研究の中止または終了後少なくとも5年間、あるいは研究結果発表後3年が経過した日までの間のどちらか遅い期日まで保管し、その後院内規則に準じて破棄します。

研究実施期間：人を対象とする医学系研究倫理審査委員会承認日から平成33年3月31日まで。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：生検・手術で摘出した組織

情報：病歴、治療歴、臨床病理学的所見、一般検査項目、糖蛋白レベル等

### 4. 外部への試料・情報の提供

外部への試料・情報の提供はありません。

## 5. 研究組織

琉球大学大学院医学研究科	腎泌尿器外科学講座	斎藤誠一
琉球大学大学院医学研究科	腎泌尿器外科学講座	仲西昌太郎
琉球大学大学院医学研究科	腎泌尿器外科学講座	須田哲司

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、  
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さまにご了承いただけない  
場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者  
さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原 207

琉球大学大学院医学研究科 腎泌尿器外科学講座

電話：098-085-1186                      ファックス：098-895-1429

担当者：仲西 昌太郎

研究責任者：

琉球大学大学院医学研究科 腎泌尿器外科学講座 斎藤 誠一

研究代表者：

琉球大学大学院医学研究科 腎泌尿器外科学講座 斎藤 誠一